

小学校英語活動の指導内容を取り入れた「インドネシア語」

前ジャカルタ日本人学校 教諭

埼玉県所沢市立南小学校 教諭 清水 篤史

キーワード：外国語活動, 国際交流, 国際理解

1. はじめに

ジャカルタ日本人学校では、在外教育施設の特徴を生かした教育として、総合的な学習の時間が導入される以前から「インドネシア語」「インドネシア理解」の学習が実施されている。これは、インドネシア政府が外国人学校（インターナショナルスクールも含む）に、インドネシア語とインドネシアの歴史や文化を学ぶことを義務づけているからである。現在、インドネシア語は3年生以上の総合的な学習の時間、インドネシア理解は1・2年生の生活科と3年生以上の総合的な学習の時間に位置付けられている。インドネシア語は、各学年年間35時間を計画しており、ティーイー：TI（Team Indonesia）と呼ばれる現地人教師が中心となり、学級担任とTT（Team Teaching）で指導にあたっている。指導計画・内容については、全てTIが作成・準備をしている。しかし、TTのための打ち合わせ時間が確保できないことや、日本人教師のインドネシア語の知識理解不足から、実際にはTI任せの授業になっている。

以下に示す実践事例は、小学部6年生で行ったものである。6年生は、国際交流の一環として現地校とのスポーツ交流を年間2回、実施している。サッカーやバスケットボール、綱引き、鬼ごっこなど、世界共通のスポーツと日本独特の運動・遊びだけでなく、インドネシア独特の体を動かす遊びを取り入れている。

一回目のスポーツ交流では、スポーツなら言葉がなくてもお互いに通じ合える、ゲームを通して自然に声をかけることができるという感想が児童から寄せられた。反面、もっと話しかければよかった、言葉が通じればもっと楽しく交流できた、インドネシア語を話せるようにしっかり勉強したい等の声も多数聞かれた。

これらのことから、インドネシア語とスポーツ交流をより充実させ、児童にとって満足のいく活動にするために、指導計画や内容、指導方法を検討しながら、今後のインドネシア語学習の在り方について研究することは、大変有意義なことであると考えた。

2. 研究について

インドネシア語は、英語と文法的に共通点が多く、日本の小学校で行われている英語活動の内容をそのまま取り入れることができると考えた。英語活動の内容を取り入れることで、比較的容易に指導内容を考え、準備をすることができる。小学校英語導入に向けたカリキュラム開発の手法を取り入れ、(1) 小学校英語活動の指導内容を取り入れた「インドネシア語」(2) 効果的な指導方法と手立て (3) 児童のインドネシア語に対する興味関心の高まりについて調査研究をした。

(1) 小学校英語活動の指導内容を取り入れた「インドネシア語」

① 小学校英語活動の主な内容

現在、日本の小学校で行われている英語活動の主な内容は下記の通りである。

- ・歌とチャンツ：英語のリズムに慣れ親しむ。
- ・絵本：英語に触れる。
- ・スキット練習：英語でのやりとりを学ぶ。
- ・ライティング：英語を書く。

・アクティビティ（ゲームなど）：英語に慣れ、親しむ。英語を楽しむ。

これらの内容は、学年の発達段階に応じて内容を選択し、ねらいを定める必要がある。今回は6年生を対象とした研究なので、チャンツ、スキット練習、ライティング、ゲームを中心とした指導計画を立てた。また、HRT（Home Room Teacher）が積極的に授業に関わっていけるよう、1時間の授業は あいさつ→チャンツ→スキット練習→ライティング→ゲーム の流れを基本とした。また、簡単に取り組むことができる、準備の負担が少ない、できるだけTIとの打ち合わせ時間を取らない、ちょっとルールや仕方を変えるだけで、さらに楽しくなるゲームを多く取り入れ、全体指導計画もできるだけパターン化した。

②単元について

本単元は、スポーツ交流で知り合った日本人学校の児童と現地校の児童がより一層のコミュニケーションを図り、友情を深めていくために、簡単なインドネシア語を使って話をしたり、質問をしたりすることができるようになることを主なねらいとしている。指導計画は、「交流に向けてインドネシア語を習得する段階」「学習したインドネシア語を活用して自分の話したいことを考え、交流会に向けて準備をする段階」「これまでの学習をいかしてインドネシア語を話す段階」の三つに分けた。段階に分けることで、児童が簡単なインドネシア語を習得し、自分の伝えたいことを伝え、相手の思いを知ろうとするコミュニケーション能力を高めることができると同時に、目的意識をもって学習に取り組むことができると考えた。

③全体指導計画（全9時間）

時	活動内容
1	【インドネシア語を習得する】 好きなくだものについてインドネシア語で話し合う Saya suka durian. Anda suka durian? / Ya, Saya suka durian. Tidak, Saya tidak suka durian.
2	【インドネシア語を習得する】 好きな教科についてインドネシア語で話し合う Saya suka olahraga. / Anda suka pelajaran apa?
3	【インドネシア語を習得する】 得意なことをインドネシア語で話し合う 1 Saya bisa bahasa Indonesia. / Anda bisa bahasa Indonesia?
4	【インドネシア語を習得する】 得意なことをインドネシア語で話し合う 2 Saya bisa bahasa Indonesia. / Anda bisa apa?
5	【自分の話したいことを考え、準備する】 スポーツ交流で自分が話し合う表現を考えよう
7 8	【これまでの学習をいかす】 インドネシアの友だちと話をしよう ウイジャヤ・クスマ校とのスポーツ交流
9	【振り返る】 活動を振り返ろう

④1時間の学習活動例

目標

- ・得意なことをインドネシア語で話すことができる。
- ・これまでに学習した表現を使って、話をするすることができる。

本時の展開

学習活動および内容	○指導上の留意点・支援 ●評価	
	HRT	TI
1 あいさつ Selamat siang. (Selamat siang ibu...) Apa kabar? (Baik-baik saja. Apa kabar?) Baik-baik saja.	○児童と共にあいさつをする。	○大きな声ではっきりと言えるように姿勢、口の動きに気をつけさせる。

<p>2 フラッシュカード 「得意なこと」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>dribble, menyanyi, melawak, main baseball main piano, main sulap, membuat kue bahasa Indonesia, naik sepeda berenang, lompat tali, main komputer</p> </div> <p>①カードの絵を見て考えたり，文字を見て辞書で調べたりする。 ②TIの後に続いて発音する。 ・二回ずつ，一回ずつ繰り返して ・リズムに合わせて ・リズムを速くして</p>	<p>○辞書の使い方が分からない児童を支援する。 ○フラッシュカードの見せ方を工夫して楽しく活動できるようにする。</p>	<p>○新出表現を辞書で調べるよう指示する。 ○発音の仕方を工夫して楽しく活動できるようにする。 ○口の形や舌の動きに気をつけて発音させる。</p>
<p>3 スキット</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: Saya bisa <u>bahasa Indonesia</u>. Anda bisa apa? B: Saya bisa <u>main piano</u>. A: Bagus!</p> </div> <p>①HRTとTIの劇を観る。 ②TIに続いて発話する。 ③全体，グループ，ペアの順番で発話する。</p>	<p>○ワークシートを配布して，新出表現を書かせる。 ○スキットを掲示して，視覚的に参考にさせる。 ○よかった点を取り上げる。</p>	<p>○全体→グループで発話し，繰り返して練習させる。 ○表情やジェスチャーも大切であることを意識させる。</p>
<p>4 アクティビティ 1 「インタビューゲーム」</p> <p>①ワークシートの中から得意なことを一つ選んで○をつける。 ②スタートの合図でペアを作り，スイットをする。 ③スイットで勝った方がA，負けた方がBの役となり，お互いにインタビューをする。 ④友達が“Saya bisa…”と答えたことにサインをもらう。 ⑤他の友達にインタビューをする。</p>	<p>○ゲームの仕方を説明する。 ○できるだけたくさんの友達にインタビューをするよう促す。</p>	<p>○あいさつや名前，お礼などを言うことも大切であることを知らせる。</p>
<p>5 アクティビティ 2 「インタビュー」</p> <p>①自分の得意なことをワークシートに書く。 ②これまでに学習した表現を使って，一人ずつ順番にグループの友達と話をする。 “Anda suka ~?” “Anda suka~apa?” “Anda bisa Apa?” の表現を使えるように，質問を変えて繰り返す。</p> <p><スキットの例> “Saya suka durian. Anda suka durian?” “Saya suka olahraga. Anda suka pelajaran apa?” “Saya bisa main piano. Anda bisa main piano?” “Saya bisa bahasa Indonesia. Anda bisa apa?”</p>	<p>○分からない言葉は辞書で調べさせたり，その場で取り上げたりして書くようにする。</p>	<p>○言葉の綴りや表現の間違いを直したり，分からない児童の支援をしたりする。</p>
<p>6 振り返り</p> <p>①本時の自己評価をして，感想を書く。 ②感想を発表する。</p>	<p>○自己評価をし，感想を書くことで本時の振り返りをさせる。</p>	
<p>7 あいさつ Sampai jumpa lagi. (Sampai jumpa lagi, ibu...)</p>	<p>○児童と共にあいさつをする。</p>	

※スイット：インドネシアのじゃんけん

(2) 効果的な指導方法と手立て

英語活動と同様な指導方法と手立てをインドネシア語に取り入れた。

①インドネシア語で指導する。

なるべくたくさんのインドネシア語に触れさせ，インドネシア語に慣れさせるために，TIはインドネシア語でインドネシア語を教える。HRTは理解できない児童の支援をする。

②自分のことについて話す題材の設定

自分から自分のことを相手に話し，相手にも質問しやすい題材を取り上げる。

③非言語コミュニケーションの重視

コミュニケーションをより深めていくためには表情、ジェスチャー、相づちなど、言語以外の要素も大切であることを意識させる。

④話す機会の充実

毎時間アクティビティ（話す活動）を取り入れる。

⑤ワークブック・ワークシートの充実

インドネシア語を覚えたり、自分の考えをまとめたりすることができるように、テーマごとに作成する。

⑥指導計画の工夫

交流の時にインドネシア語で会話をするために、インドネシア語を習得する段階、学習したインドネシア語を元に自分の話したいことを考え、交流に向けて準備する段階に分けることで、単元のねらいをより明確にする。

⑦教室環境の整備

教室にインドネシア語、インドネシア理解に関するものを掲示する。

(3) 児童のインドネシア語に対する興味関心の高まり

通常のインドネシア語の授業における児童の興味関心を調査した。「すごく楽しい」「楽しい」と答えた児童は、4人（22人中）だった。本研究の第4時終了後（インドネシア語を習得する段階）の調査では、21人（22人中）だった。児童の興味関心は飛躍的に高まっている。

3. 研究の結果（成果と課題）

(1) 成 果

- ・英語活動の指導内容・指導方法は、インドネシア語に活用できることがわかった。
- ・フラッシュカードやゲームなど、英語活動の内容を取り入れることで、児童の興味関心を高めることができた。
- ・毎時間、話す活動を取り入れることにより、簡単なインドネシア語を繰り返し練習する機会を多くもった。その結果、児童が自信をもって発話できるようになった。スポーツ交流では、これまでの交流と比べて明らかに積極的に声をかけることができた。
- ・自分のことを話してから、相手にも質問するスキットにすることで、自分から話しかけ、相手の話もよく聞く機会を多く取り入れた。その結果、インタビューゲームを通じて、互いに話をし、交流を深めることができた。
- ・「簡単なインドネシア語を覚え、交流会を通して…」というねらいで、インドネシア語の学習を進めた。実際に活用する場面を設定することで、目的意識を高め、意欲を持って取り組むことができた。
- ・くだものや教科など、児童にとって身近なことを題材し、フラッシュカードやゲームを取り入れることで、児童の興味関心を高めることができた。
- ・非言語コミュニケーションを重視することにより、いろいろな表現の仕方を身につけることができた。
- ・毎時間、アクティビティ（話す活動）を取り入れることにより、簡単なインドネシア語を繰り返し練習する機会を多くもった。その結果、習熟レベルに関わらず児童が自信をもって発話できるようになった。

(2) 課 題

- ・今後、担任がより積極的に授業に関わっていけるよう、教材、環境などを整えていく必要がある。
- ・高学年においては、インドネシア語と交流を関連させ、具体的な目標を設定した年間指導計画の作成をする必要がある。
- ・TTの役割が不明確だった。もっとTIをいかした授業を実施したい。

4. さいごに

平成20年1月に中教審の答申の中で、小学校高学年での「外国語活動」の必修化が盛り込まれ、同年3月に学習指導要領が公示された。現在、日本各地の小学校では、23年度の完全実施に向けて本格的な取り組みが始まっている。これまで学校によってばらばらだった取り組みにも、ようやく方向性が見えてきた。

本研究の始まりは、英語活動の手法をインドネシア語の授業に取り入れれば、より楽しくより簡単にインドネシア語を身に付けることができるのではないかと考えたことが始まりだった。

当然ながら、在外教育施設に通う子どもたちは、言葉を身に付ける必要性や必然性を感じる環境で生活している。しかし、残念ながら、そのせっきくの環境をうまく生かせずに過ごしてしまう子どもたちは多い。

今後、在外教育施設に派遣される先生方が、外国語活動の指導経験を積み、その経験を生かしていくことで、より充実したインドネシア語の学習と交流活動ができるはずである。その結果、子どもたちが自分たちの恵まれた環境を十分に生かし、現地の子どもたちとより深い友好関係を築いて行くことにつながると考える。外国語活動の目標にある通り、「言語や文化について体験的に理解を深め、コミュニケーション能力の素地を養う」ために、これだけ適した環境は他にない。ぜひ、この恵まれた環境を十分に生かせるような活動を実践していただきたい。

私自身もここ日本において、世界に羽ばたく日本人の育成を目指して、日々授業実践に励んでいきたいと考えている。